

略広二本『選択本願念仏集』前七章考異稿

森 新之介

緒言

院政後期に浄土宗を立てた法然房源空（長承二年〔1133〕～建暦二年〔1212〕）は建久九年（1198）、九条兼実の懇請に応じて主著『選択本願念仏集』一卷（以下、『選択集』と略す）を撰述した。同書は略本と広本の二系統に分かれて伝写されていき、その異同等が近年注目されている。

本稿は、本誌本号所載の別稿で紹介した三宝寺本『選択集』を用い、略広二本の異同の大略を示そうとするものである。略本や広本、三宝寺本の詳細についての解説は同稿に譲る。

略本には延応版を用い、広本には三宝寺本を用いる。ただし、延応版も三宝寺本も伝本として完璧に近いものの無瑕でなく、これらの比較によって略広二本の異同を完全に明らかにすることは不可能である。その大略を示そうとすると述べた所以である。

これと関連して、本稿では字を少なからず改めて統一を図った。例えば、周知の如く同音の「華」と「花」は、異義の異字としてだけでなく同義の異体としても用いられた。そのため、『選択集』のある箇所では一本が「法華」に作り他本が「法花」に作るというようなことも有り得るが、それは必ずしも略本と広本で当初から異なっていたのではなく、伝写過程で改められただけであるかも知れない。そのような不同までも出校すれば余りに繁冗となり、略広二本に固有の不同が明らかでなくなってしまう。

なお、本稿で『選択集』十六章の前七章だけを対象とするのは、後九章は広本らしき伝正中版の影印が刊行されており、読者が容易に調査できるからである。

る。本稿は誤刻失校があるかも知れないが、それでも三宝寺本を用いてこそ作り得たものであり、今後の『選択集』諸本研究などに裨益すると信じている。

凡例

一、校文の底本は善氣山法然院万無教寺藏延応元年（1239）版であり、これを「宝本」こと三宝寺本によって改行改訂した。脚註では、「往本」こと当麻寺奥院藏伝元久元年（1204）書写本『選択集』や「龍本」こと龍谷大学図書館藏覚善識語本『選択集』（請求記号「〇二二・一五四・四」）、「山版」こと元禄九年（1696）良照義山募刻版『選択集』、『決疑鈔』こと然阿良忠『選択伝弘決疑鈔』（永仁七年〔1299〕書写本、仏教大学付属図書館貴重書室藏、請求記号「〇九三・一・一二」）、『私集鈔』こと善偉堯恵『選択私集鈔』（享保元年〔1716〕版）、『大経釈』こと『無量寿経釈』（承応三年〔1654〕版）、『大経記』こと西誉聖聡『無量寿経直談要註記』巻第一（永享五年〔1433〕成立、元和寛永年間古活字版）を用いた。なお、底本と往本、山版は大正大学浄土宗宗典研究会編『選択集』諸本の研究——資料編——』（文化書院、1999）の影印によった。

一、「緒言」で述べた如く、字は少なからず改めて統一を図った。その一部を示せば次の如し（丸括弧内は改めて用いなかった字体）。己（己巳）、亦（多）、於（於）、華（花）、廻（迴）、碍（礙）、棄（弃）、鍵（鍵）、校（校）、最（最）、莊（庄）、障（鄣）、瞋（嗔）、船（船）、疏（疏）、疎（疎）、歎（嘆）、痴（癡）、著（着）、答（荅）、年（年）、廃（廢）、毘（毗）、憑（憑）、無（无）、弥（彌）、ただし、「慧」「叵」「辨」「餘」「豫」はママとし、それぞれ「恵」「難」「弁」

「余」「予」に改めなかった。

一、宝本の文字は引用せず、許慎『説文解字』に倣ってその字形を示した〔阿〕字を「从昌可聲」とするなど。ただし、底本だけでなく宝本にも異体字が多く用いられているため、脚註での字形説明は必ずしも実際の字形と同じでない。説文風に示し難い字は、周興嗣『千字文』の一句四字の何れであるかを示すなどした〔天〕字を「某地玄黄之第一」とするなど。

一、校文において、底本の字句が宝本のそれと異なっていれば、その箇所には**四方野**を施して校記した。底本にない字句が宝本にあれば、その箇所に□記号を置いて校記した。底本にある字句が宝本になれば、その字句を削除して前後二字に波線を施し校記した。ただし、底本と宝本で字句が異なるものの、それが宝本の誤写によるものらなければ校記するのみとした。各章の章題は、検索を便ならしめるため**太字ゴチック体**とした。

一、宝本は原則として一行十八字（一格低書していれば十七字）であるが、稀に字高は同じながらそれより字数の多いまたは少ない行がある。本稿では、十九字以上の行と十七字の行をそれぞれ「長行」「短行」と称して校記した。なお、宝本には脱字を小圏点と右傍小書により補記した箇所が散見し、それらはすべて補入して校記しなかった。

1 選択本願念仏集 □
2 南無阿弥陀仏 往念生之業
3 道綽禪師立聖道淨土二門而捨聖道正歸
4 淨土之文
5 □ □ 安樂集上云問曰一切衆生皆有仏性遠
6 劫以來応値多仏何因至今仍自輪廻生死不
7 出火宅答曰依大乘聖教良由不得二種勝法
8 以排生死是以不出火宅何者為二一謂聖道

(1才)

1才1「集」下、宝本1字（从木一在其下）を
右倚小書す。
1才2「南無阿弥陀仏」下、底本空格有り、
宝本無し。今刪る。
1才2夾注「先」、龍本「本」に作り、宝本も
同じ。
1才5「安」上、宝本2字（从言堇聲、从木安聲）
有り。龍本云く、「ツ、シンテ」「案スルニ」
と。

(1ウ)

1 二謂往生淨土其聖道一種今時難証一由去
2 大聖遙遠二由理深解微是故大集月藏經云
3 我末法時中億億衆生起行修道未有一人得
4 者当今末法是五濁惡世唯有淨土一門可通
5 入路是故大經云若有衆生縱令一生造惡臨
6 命終時十念相續称我名字若不生者不取正
7 覺又復一切衆生都不自量若拋大乘真如実
8 相第一義空曾未措心若論小乘修入見諦修

1 道乃至那含羅漢斷五下除五上無問道俗未
2 有其分縱有人天果報皆為五戒十善能招此
3 報然持得者甚希若論起惡造罪何異暴風駛
4 雨是以諸仏大慈勸歸淨土縱使一形造惡但
5 能繫意專精常能念仏一切諸障自然消除定
6 得往生何不思量都無去心也

7 私云竊計夫立教多少随宗不同且如有相
8 宗立三時教而判一代聖教所謂有空中是

(2才)

(2ウ)

1 也如無相宗立二藏教以判一代聖教所謂
2 菩薩藏聲聞藏是也如華嚴宗立五教而撰
3 一切仏教所謂小乘教始教終教頓教円教
4 是也如法華宗立四教五味以撰一切仏教
5 四教者所謂藏通別円是也五味者所謂乳
6 酪生熟醍醐是也如真言宗立二教而撰一
7 切所謂顯教密教是也今此淨土宗者若依
8 道綽禪師意立二門而撰一切所謂聖道門

(3オ)

1 淨土門是也問曰夫立宗名本在華嚴天台
2 等八宗九宗未聞於淨土之家立其宗名然
3 今号淨土宗有何証拠也答曰淨土宗名其
4 証非一元曉遊心安樂道云淨土宗意本為
5 凡夫兼為聖人又慈恩西方要決云依此一
6 宗又迦才淨土論云此之一宗窃為要路其
7 証如此不足疑端但諸宗立教正非今意且
8 就淨土宗略明二門者一者聖道門二者淨

2ウ7「顯教密教」、龍本「顯密二教」に作り、宝本も同じ。

3オ7「正非今意」、山版「非今正意」に作り、宝本も同じ。

(3ウ)

1 土門初聖道門者就之有_二一者大乘二者
2 小乘就大乘中雖有顯密權實等不同今此
3 集意唯存顯大及以權大故當歷劫迂廻之
4 行准之思之_二應存密大及以實大_一
5 □□□□然則今真言仏心天台華嚴三
6 論法相地論撰論此等八家之意正在此也
7 應知次小乘者總是小乘經律論之中所明
8 声聞緣覺斷惑証理入聖得果之道也_{准上}

1 思_之亦可_一□撰俱舍成実諸部律宗而已凡
2 此聖道門大意者不論大乘及以小乘於此
3 娑婆世界之中修四乘道得四乘果也四乘
4 者三乘之外加仏乘□次往生浄土門者就
5 此有_二一者正明往生浄土之教二者傍明
6 往生浄土之教初正明往生浄土之教者謂
7 三經一論是也三經者一無量寿經二觀無
8 量寿經三阿弥陀經也一論者天親往生論
(4オ)

3ウ4「大」下、宝本9字有り。『私集鈔』云く、「広本云「應存密大及以實大即當速疾直往之行也」_上」と。

又た底本「大然」間に小圈点を施し右傍に「イ本「即當速疾直往之行也」」11字を小書す。宝本9字是れなり。

3ウ8-4オ1「准上思之」、『決疑鈔』云く、「広本云「准大思之」」と。又た『私集鈔』云く、「広本云「准大思小」」と。宝本『私集鈔』所引の4字に作り、第4字の右傍に2字（如松某盛之第三、他字之偏）を小書す。

4オ1「可」、宝本2字（从イ復聲、从ハ之下一之上多省聲）に作り、龍本「マタヨロシク」「ヘシ」に作る。

4オ4「乗」下、山版「也」字有り、宝本も同じ。

(4ウ)

1 是也或指此三經号浄土三部經也問曰三
2 部經名亦有其例乎答曰三部經名其例非
3 一者法華三部謂無量義經法華經普賢
4 觀經是也二者大日三部謂大日經金剛頂
5 經蘇悉地經是也三者鎮護国家三部謂法
6 華經仁王經金光明經是也四^{彌勒}三部謂
7 上生經下生經成仏經是也今者唯是弥陀
8 三部故名浄土三部經也□□弥陀三部□

(5オ)

1 者□是浄土正依經也次傍明往生浄土之
2 教者華嚴法華随求尊勝等明諸往生浄土
3 之諸經是也又起信論宝性論十住毘婆^沙
4 論撰大乘論等明諸往生浄土之諸論是也
5 凡此集中立聖道浄土二門意者為令捨聖
6 道入浄土門也就此有二由一由去大聖遙
7 遠二由理深解微此宗之中立二門者独非
8 道綽曇鸞天台迦才慈恩等諸師皆有此意

4ウ1「此」下、宝本「三」字無く、糸偏の初一両画有り。案ずるに、誤写して訂せざるなり。

4ウ6「四弥」間、底本「者」字有り、宝本無し。今刪る。

4ウ8「也」下、宝本2字（从田尚聲、从口从矢）有り、龍本「マサニシルヘシ」有り。

4ウ8「弥陀三部」下、龍本「經」字有り、宝本も同じ。

5オ1「者」下、宝本1字（从𠂔𠂔聲）有り、龍本「スナハチ」有り。

5オ3「沙」、往本「娑」に作り、宝本も同じ。

(5ウ)

1 且曇鸞法師往生論注云謹案龍樹菩薩十
2 住毘婆沙云菩薩求阿毘跋致有二種道一
3 者難行道二者易行道難行道者謂五濁之
4 世於無仏時求阿毘跋致為難此難乃有多
5 途粗言五三以示義意一者外道相善乱菩
6 薩法二者声聞自利障大慈悲三者無顧惡
7 人破他勝德四者顛倒善果能壞梵行五者
8 唯是自力無他力持如斯等事触目皆是譬

1 如陸路步行則苦易行道者謂但以信仏因
2 縁願生浄土乘仏願力使得往生彼清浄土
3 仏力住持即入大乘正定之聚正定即是阿
4 毘跋致譬如水路乘船則樂^{上已}此中難行
5 道者即是聖道門也易行道者即是浄土門
6 也難行易行聖道浄土其言雖異其意是同
7 又西方要決云仰惟釈迦啓運弘益有縁教
8 闡隨方並霑法潤親逢聖化道悟三乘福薄

(6オ)

5ウ2「沙」、往本「娑」に作り、宝本も同じ。

6オ4、短行。

6オ6-同7「同又」間、底本「天台迦才同之応知」8字有り、宝本無し。今刪る。

(6ウ)

1 因疎勸帰浄土作斯業者専念弥陀一切善
2 根廻生彼国弥陀本願誓度娑婆上尽現生
3 一形下至臨終十念俱能決定皆得往生^{上已}
4 又同後序云夫以生居像季去聖斯遙道預
5 三乘無方契悟人天兩位躁動不安智博情
6 弘能堪久处也若識痴行浅恐溺幽塗必須
7 遠跡娑婆栖心浄域^{上已}此中三乘者即是聖
8 道門意也浄土者即是浄土門意也三乘浄

1 土聖道浄土其名雖異其意亦同□□□
2 □□□□□浄土宗学者先須知此旨設
3 雖先学聖道門□人若於浄土門有其志□
4 者須棄聖道帰於浄土例如彼曇鸞法師捨
5 四論講說一向帰浄土道綽禪師閣涅槃広
6 業偏弘西方行上古賢哲猶以如此末代愚
7 魯寧不遵之哉問曰聖道家諸宗各有師資
8 相承謂如天台宗者慧文南岳天台章安智

(7オ)

7オ1「同」下、宝本10字（从一大、从口呂聲、从辵加聲、从丨上貫一、从竹从寺、从心从音、从欠从隹、如松某盛之第三、从心癰聲、从口从矢）有り、龍本「天台迦才等ノコ、ロコレニ准シテシリヌヘシ」有り。

7オ3「聖道門」下、宝本1字（如松某盛之第三）有り。

7オ3「志」下、龍本「願」字有り、宝本も同じ。

7オ7「魯」、龍本「迷」に作り、宝本も同じ。

(7ウ)

1 威慧威玄朗湛然次第相承如真言宗者大
2 日如来金剛薩埵龍樹龍智金智不空次第
3 相承自餘諸宗又各有相承血脈而今所言
4 □浄土宗□有師資相承血脈譜乎答曰如
5 聖道家血脈□□浄土宗亦有血脈但諸
6 家不同□□□所謂廬山慧遠法師慈愍
7 三藏道綽善導等是也今□且依道綽善導
8 之一家□論師資相承血脈者□此亦有兩

1 說一者菩提流支三藏慧寵法師道場法師
2 曇鸞法師大海禪師法上法師已上出唐安樂集二者
3 菩提流支三藏曇鸞法師道綽禪師善導禪
4 師懷感法師小康法師已上出唐宋兩伝

善導和尚立正雜二行捨雜行歸正行之文

6 □□觀經疏第四□云就行立信者然行有二
7 種一者正行二者雜行言正行者專依往生經
8 行行者是名正行何者是也一心專誦誦此觀

(8オ)

7ウ4「浄」上、宝本1字（治本某農之第三）有り。

7ウ4「宗」下、宝本1字（某聚羣英之第一）有り。

7ウ4「乎」、宝本異字（焉哉乎某之第四）に作る。

7ウ5「家」下の「血脈」、龍本「師資相繼」4字に作り、宝本も同じ。

7ウ5「浄土宗」上、宝本1字（治本某農之第三）有り。

7ウ5「有」下の「血脈」、龍本「譜系」に作り、宝本も同じ。

7ウ5「但諸」間、底本「於浄土一宗」5字有り、宝本無し。今刪る。

7ウ6「家不」間、底本「亦」字有り、宝本無し。今刪る。

7ウ6「同」下、宝本4字（从二戸、从辵土聲、从飛下𦏧、壹之小字）有り、龍本「門徒ヒトツニアラス」有り。

7ウ7「今」下、宝本1字（从白𠂔聲）有り、龍本「ハ」有り。

7ウ8「家」下、宝本1字（去某益詠之第二）有り。

7ウ8「者」下、宝本1字（焉哉乎某之第四）有り。

8オ2夾注「榮」、宝本譌りて異字（从木攸聲）の略体（从久从木）に作る。

8オ6「觀」上、宝本2字（从言堇聲、从木安聲）有り、龍本云く「ツ、シンテ」「案スルニ」と。

8オ6「四」下、龍本「卷」字有り、宝本も同じ。

(8ウ)

1 經弥陀經無量壽經等一心專注思想觀察憶
2 念彼国二報莊嚴若礼即一心專礼彼仏若口
3 称即一心專称彼仏若讚歎供養即一心專讚
4 歎供養是名為正又就此正中復有二種一者
5 一心專念弥陀名号行住坐臥不問時節久近
6 念念不捨者是名正定之業順彼仏願故若依
7 礼誦等即名為助業除此正助二行已外自餘
8 諸善悉名雜行若修前正助二行心常親近憶

1 念不斷名為無間也若行後雜行即心常間斷
2 雖可廻向得生衆名疎雜之行也

3 私云就此文有二意一明往生行相二判二
4 行得失初明往生行相者依善導和尚意往
5 生行雖多大分為二一正行二雜行初正行
6 者付之有開合二義初開為五種後合為二
7 種初開為五種者一讀誦正行二觀察正行
8 三礼拝正行四称名正行五讚歎供養正行

(9オ)

9オ6「付之」、山版「就此」に作り、宝本も同じ。

也第一讀誦正行者專讀誦觀經等也即文

云一心專讀誦此觀經弥陀經無量壽經等

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

第二觀察正行

者專觀察彼国依正二報也即文云一心專

注思想觀察憶念彼國二報莊嚴是也第三

礼拜正行者專礼弥陀也即文云若礼即一

心專禮彼仏是也第四称名正行者專称弥

陀名号也。即文云：若口称即一心，專称彼仏。

是也第五讚歎供養正行者專讚歎供養彌

陀也即文云若讚歎供養即一心專讚歎供

(10才)

龍本云く、「マタク」「第五卷」「十力等功德ノ」「ハナハタモテ」と。

[illegible][illegible]

次雜

行者即文云除此正助二行已外自餘諸善

5 悉名雜行是也意云雜行無量不遑具述今

且翻對五種正行以明五種雜行也一讀誦

7 雜行二 觀察雜行三 礼拝雜行四 称名雜行

五讚歎供養雜行也第一誦誦雜行者除上

1 觀經等往生淨土經已外於大小乘顯密諸

2 經受持讀誦悉名讀誦雜行第二觀察雜行

者除上極樂依正已外大小顯密事理觀行

4 □ 悉名觀衆雜行第三礼拝雜行者除上礼

5 拜弥陀已外於一切諸餘仏菩薩等及諸世

天等礼拝恭敬悉名礼拝雑行第四称名雑

行者除上称弥陀名号已外称自餘一切仏

8
菩薩等及諸世天等名号悉名称名雜行第

(12才)

11ウ5「述今」間、底本「但」字有り、宝本無し。今刪る。

12才4 「悉」上、往本「皆」字有り、宝本も同じ。

(12ウ)

1 五讚歎供養雜行者除上弥陀仏已外於一
2 切諸餘仏菩薩等及諸世天等讚歎供養悉
3 名讚歎供養雜行此外亦有布施持戒等無
4 量之行皆可撰盡雜行之言次判二行得失
5 者若修前正助二行心常親近憶念不斷名
6 為無間也若行後雜行即心常間斷雖可廻
7 向得生衆名疎雜之行即其文也案此文意
8 就正雜二行有五番相對一親疎對二近遠

1 對三有間無間對四廻向不廻向對五純雜

2 對也第一親疎對者先親者修正助二行者
3 於阿弥陀仏甚以為親昵故疏上文云衆生
4 起行口常稱仏仏即聞之身常礼敬仏仏
5 即見之心常念仏仏即知之衆生憶念仏者
6 仏憶念衆生彼此三業不相捨離故名親縁
7 也次疎者□雜行也□□□□衆生不稱
8 仏仏即不聞之身不礼仏仏即不見之心不

(13オ)

- 13オ1 「有間無間對」、龍本「無間有間對」に作り、宝本も同じ。
13オ1 「廻向不廻向對」、龍本「不廻向廻向對」に作り、宝本も同じ。
13オ3 「為」、宝本異字（从糸吉聲）に作り、龍本「ムスフ」に作る。
13オ4、短行。
13オ7 「者」下、宝本1字（从日正）有り、龍本「コレ」有り。
13オ7 「行也」下、『大經記』「翻親謂是者」5字有り、宝本も同じ。

(13ウ)

1 念仏即不知之衆生不憶念仏者仏不憶
2 念衆生彼此三業常捨離故名疎行也第二
3 近遠對者先近者修正助二行者於阿弥陀
4 仏甚以隣近□故疏上文云衆生願見仏
5 即応念現在目前故名近縁也次遠者□雜
6 行也□□□□衆生不願見仏即不応
7 念不現目前故名遠也但親近義是雖似一
8 善導之意分為二其旨見疏文故今所引釈

1 也第三無間有間對者先無間者修正助二
2 行者於□弥陀仏憶念不間斷故云名為無
3 間是也次有間者□□□□□□□□
4 修雜行者於阿弥陀仏憶念常間斷故云□
5 □□□□□□心常間斷是也第四不廻向
6 廻向對者修正助二行者縱令別□不用廻
7 向自然□成往生□業故疏上文云今此觀
8 經中十声称仏即有十願十行具足云何具
(14オ)

13ウ4「以隣」間、底本「為」字有り、宝本無し。今刪る。

13ウ4「近」下、『大經記』「也」字有り、宝本も同じ。

13ウ5「者」下、宝本1字（从日正）有り、龍本「コレ」有り。

13ウ6「也」下、『大經記』「隣近謂是者」5字有り、宝本も同じ。

13ウ8「分為」間、底本「而」字有り、宝本無し。今刪る。

14オ2「弥陀仏」上、龍本「阿」字有り、宝本も同じ。

14オ3「者」下、『大經記』「是雜行也隣無間謂是者」10字有り、宝本も同じ。

14オ4「故云」、『大經釈』「即文云若行後雜行即」9字に作り、宝本も同じ。

14オ6「別」下、『大經記』「雖」字有り、宝本も同じ。

14オ7「然」下、『大經記』「而」字有り、宝本も同じ。

14オ7「生」下、『大經記』「之」字有り、宝本も同じ。

(15才)

14ウ7「者是」下、『大經記』「雜行也翻純謂是者修雜行者是」13字有り、宝本も同じ。

15才6—同8、長行。

8 7 6 5 4 3 2 1								8 7 6 5 4 3 2 1							
(16オ)	賢聖集	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	度也	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	是純後一雜	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	性相	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	是純後一雜	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	度也	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	論則立八	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	度明諸法	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	前十九	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	十	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	度以明戒行其中	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	純一含是雜律即	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	立二	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	乘即於四含之中而立雜含	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	当知三含是	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
(15ウ)								(15ウ)							

15ウ1「含」下、『大經釈』「四含者一増一阿含二長阿含三中阿含四雜阿含」20字有り、宝本も同じ。

15ウ1-同2、長行。

15ウ3「即」、『大經釈』「則於二十犍度之中而」9字に作り、宝本も同じ。

15ウ3「二十犍度以明戒行其中」、宝本117字に作り、『大經釈』「雜犍度二十犍度者一受戒犍度二者説戒犍度三者安居犍度四自恣犍度五皮革犍度六衣犍度七葉犍度八迦絺那衣犍度九鳩睺弥犍度十瞻婆犍度十一呵責犍度十二人犍度十三覆藏犍度十四遮犍度十五破僧犍度十六減諍犍度十七尼犍度十八説法犍度十九房舍犍度二十雜犍度当知」119字に作りて大同なり。但だ小異有りて、宝本「二者」「三者」の「者」2字無く、「諍」字を譌りて異字（从水爭聲）に作るのみ。

16オ3「一雜」間、底本「是」字有り、宝本無し。今刪る。

16オ3「立八犍度明諸法性相」、『大經釈』「於八犍度之中而立雜犍度八犍度者一業二使三智四定五根六大七見八雜当知」33字に作り、宝本も同じ。

16オ5「七是」間、底本「犍度」2字有り、宝本無し。今刪る。

16オ6「也」下、『大經釈』「又小乘經量部於五藏之中而立雜藏五藏者一修多羅藏二毘尼藏三阿毘曇藏四雜藏五呪藏当知四純一雜又」45字有り、宝本も同じ。

8	7	6	5	4	3	2	1	8	7	6	5	4	3	2	1
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐													

(16ウ)

17才6「矣」下、宝本53字有り、『大經釈』「取要言之正即雖有誦誦觀察礼拝讃歎等五種不同取於称名名為正行雜即雖有疎遠有間迴向雜等五義不同取純雜義名為雜行」53字有りて大同なり。但だ小異有りて、宝本「礼」を異字（从禾聿聲）に作るのみ。龍本云く、「誦誦觀察礼称讃歎等」と。

[illegible]

一師若依道綽禪師意者往生行雖多束而

☐☐☐☐☐ 若依懷感禪師意 ☐ 往生行雖

同惠之心 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ 如是三師 ☐ ☐ ☐

餘師不然行者應思之☐☐☐☐往生礼讚

念相續畢命為期者十即十生百即百生何

不違教故隨順仏語故若欲捨專修雜業者

緣亂動失正念故與仙本願不相應故與教

(18才)

99 (30)

8	7	6	5	4	3	2	1	8	7	6	5	4	3	2	1
斷故迴願不慙重真実故貪瞋諸見煩惱來	問斷故無有慚愧悔過故又不相續念報彼	仏恩故心生輕慢雖作業行常与名利相応	故人我自覆不親近同行善知識故樂近雜	縁自障障他往生正行故何以故余比日自	見聞諸方道俗解行不同專雜有異但使專	意作者十即十生修雜不至心者千中無一	此二行得失如前已辨仰願一切往生人等	善自思量已能今身願生彼国者行住坐臥	必須勵心剋已昼夜莫廢畢命為期正在一	形似如小苦前念命終後念即生彼国長時	永劫常受無為法樂乃至成仏不逕生死豈	非快哉応知□□私云見此文弥須捨雜修專	豈捨百即百生專修正行堅執千中無一雜	修雜行乎行者能思量之	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

(18
ウ)

(31) 98

(19
ウ)

8 7 6 5 4 3 2 1

8 7 6 5 4 3 2 1

(20才)

(20
ウ)

21オ5「同」、宝本異字（手也象形）に作り、龍本「マタ」に作る。

(21ウ)

1 私云一切諸仏各有総別二種之願総者四
2 弘誓願是也別者如釈迦五百大願藥師十
3 二上願等是也今此四十八願者是弥陀別
4 願也問曰弥陀如来於何時何仏所発此願
5 乎答曰寿経云仏告阿難乃往過去久遠無
6 量不可思議無央数劫定光如来興出於世
7 教化度脱無量衆生皆令得道乃取滅度次
8 有如来名曰光遠乃次名处世如此諸仏五十

1 也皆悉已過爾時次有仏名世自在王如来
2 時有国王聞仏説法心懷悦豫尋発無上正
3 真道意棄国捐王行作沙門号曰法蔵高才
4 勇哲与世超異詣世自在王如来所至乃於是
5 世自在王仏即為広説二百一十億諸仏刹
6 土人天之善惡国土之麁妙応其心願悉現
7 与之時彼比丘聞仏所説嚴浄国土皆悉觀
8 見超発無上殊勝之願其心寂靜志無所著
(22才)

21ウ8、長行。

(22ウ)

1 一切世間無能及者具足五劫思惟撰取莊
2 嚴仏国清浄之行阿難白仏彼仏国土寿量
3 幾何仏言其仏寿命四十二劫時法藏比丘
4 撰取二百一十億諸仏妙土清浄之行^{上已}又
5 大阿弥陀經云其仏即選択二百一十億仏
6 国土中諸天人民之善惡国土之好醜為選
7 択心中所欲願樓夷亘羅仏^{此云世自在王仏}説經畢
8 曇摩迦^{此云法藏}便一其心即得天眼徹視悉自

1 見二百一十億諸仏国土中諸天人民之善
2 惡国土之好醜即選択心中所願便結得是
3 廿四願經^{平等覺經亦復同之}此中選択者即是取
4 捨義也謂於二百一十億諸仏浄土中捨人
5 天之惡取人天之善捨国土之醜取国土之
6 好也大阿弥陀經選択義如是双卷意^{意亦有}
7 選択義謂云撰取二百一十億諸仏妙土清
8 浄之行是也選択与撰取其言雖異其意是
(23オ)

22ウ7、長行。

23オ3「廿」、龍本「二十」2字に作り、宝本も同じ。

23オ6「卷意」間、底本「經」字有り、宝本無し。今刪る。

(23ウ)

1 同然者捨不清淨行取清淨之行也上天人
2 之善惡国土之麤妙其義亦然准之応知夫
3 約四十八願一往各論選択摂取之義者第
4 一無三惡趣願者於所覩見之二百一十億
5 土中或有有三惡趣之国土或有無三惡趣
6 之国土即選捨其有三惡趣麤惡国土選取
7 其無三惡趣善妙国土故云選択也第二不
8 更惡趣願者於彼諸仏土中或有縱雖國中

1 無三惡道其國人天壽終之後從其國去復
2 更三惡趣之土或有不更惡道之土即選捨
3 其更惡道麤惡国土選取其不更惡道善妙
4 国土故云選択也第三悉皆金色願者於彼
5 諸仏土中或有一土之中有黃白二類人天
6 之国土或有純黃金色之国土即選捨黃白
7 二類麤惡国土選取黃金一色善妙国土故
8 云選択也第四無有好醜願者於彼諸仏土

(24才)

(24ウ)

1 中或有人天形色好醜不同之国土或有形
2 色一類無有好醜之国土即選捨好醜不同
3 麤惡国土選取無有好醜善妙国土故云選
4 択也乃至第十八念仏往生願者於彼諸仏
5 土中或有以布施為往生行之土或有以持
6 戒為往生行之土或有以忍辱為往生行之
7 土或有以精進為往生行之土或有以禪定
8 為往生行之土或有以般若信第一義
等是也為往生

1 行之土或有以菩提心為往生行之土或有
2 以六念為往生行之土或有以持經為往生
3 行之土或有以持呪為往生行之土或有以
4 起立塔像飯食沙門及以孝養父母奉事師
5 長等種種之行各為往生行之国土等或有
6 專称其国仏名為往生行之土如此以一行
7 配一仏土者是且一往之義也再往論之其
8 義不定或有一仏土中以多行為往生行之
(25才)

24ウ8、長行。

(25ウ)

1 土或有多仏土中以一行通為往生行之土
2 如是往生行種種不同不可具述也即今選
3 捨前布施持戒乃至孝養父母等諸行選取
4 專称仏号故云選択也且約五願略論選択
5 其義如是自餘諸願准之応知問曰普約諸
6 願選捨麤惡選取善妙其理可然何故第十
7 八願選捨一切諸行唯偏選取念仏一行為
8 往生本願乎答曰聖意難測不能輒解雖然

1 今試以二義解之一者勝劣義二者難易義
2 初勝劣者念仏是勝餘行是劣所以者何名
3 号者是万徳之所歸也然則弥陀一仏所有
4 四智三身十力四無畏等一切内証功德相
5 好光明說法利生等一切外用功德皆悉撰
6 在阿弥陀仏名号之中故名号功德最為勝
7 也餘行不然各守一隅是以為劣也譬如世
8 間屋舎□□□名字之中撰棟梁椽柱等一
(26オ)

26オ7「各」、宝本譌りて異字（从竹合聲）の異体（从艸合聲）に作る。

26オ8「舎」下、往本「其屋舎」3字有り、宝本も同じ。

(26ウ)

1 切家具□棟梁等一名字中不能撰□一
2 切□□以^之_之応知然則仏名号功德勝餘一
3 切功德故捨劣取勝以為本願歟次難易義
4 者念仏易修諸行難修是故往生礼讃云問
5 曰何故不令作觀直遣專称名字者有何意
6 也答曰乃由衆生障重境細心麁識颺神飛
7 觀難成就也是以大聖悲憐直勸專称名字
8 正由称名易故相統即生^{上已}又往生要集問

1 曰一切善業各有利益各得往生何故唯勸
2 念仏一門答曰今勸念仏非是遮餘種種妙
3 行只是男女貴賤不簡行住坐臥不論時处
4 諸縁修之不難乃至臨終願求往生得其便
5 宜不如念仏^{上已}故知念仏易故通於一切諸
6 行難故不通諸機然則為令一切衆生平等
7 往生捨難取易為本願歟若夫以造像起塔
8 而為本願者貧窮困乏^レ類定絶往生望然富
(27オ)

26ウ1「具」下、宝本1字（勉某祇植之第二）有り。

26ウ1「撰」下、宝本1字（治本某農之第三）有り。

26ウ2「切」下、龍本「家具」有り、宝本も同じ。

26ウ2「之」、宝本異字（从斤其聲）に作り、龍本「コレ」に作る。

27オ8「乏類」間、底本「之」字有り、宝本無し。今刪る。

(27ウ)

1 貴者少貧賤者甚多若以智慧高才而為本
2 願者愚鈍下智者定絶往生望然智慧者少
3 愚痴者甚多若以多聞多見而為本願者少
4 聞少見輩定絶往生望然多聞者少少聞者
5 甚多若以持戒持律而為本願者破戒無戒
6 人定絶往生望然持戒者少破戒者甚多自
7 餘諸行准之応知^当知以上諸行等而為本
8 願者得往生者少不往生者多然則弥陀如

1 来法藏比丘之昔被催平等慈悲普為撰於
2 一切不以造像起塔等諸行為往生本願唯
3 以称名念仏一行為其本願也故法照禪師
4 五会法事讚云彼仏因中立弘誓聞名念我
5 総迎來不簡貧窮將富貴不簡下智与高才
6 不簡多聞持淨戒不簡破戒罪根深但使廻
7 心多念仏能令瓦礫变成金^{上已}問曰一切菩
8 薩雖立其願或有已成就^亦有未成就未審
(28オ)

27ウ7「当」、宝本異字（从日正）に作り、龍本「コ、ニ」に作る。

28オ8「亦」、『大經釈』「或」に作り、宝本も同じ。

(28ウ)

1 法藏菩薩四十八願已為成就將為未成就
2 也答曰法藏誓願一一成就□□□□
3 □□何者極樂□界中既無三惡趣当知是
4 即成就□□無三惡趣之願也何以得知即
5 □□□願成就文云亦無地獄餓鬼畜生
6 諸難之趣是也又彼国人天寿終之後無更
7 三惡趣当知是即成就□□不更惡趣之願
8 也以何得知即□□□願成就文云又彼

(29オ)

1 菩薩乃至成仏不更惡趣是也又極樂人天
2 既以無有一人不具三十二相当知是成就
3 □□□具三十二相願也以何得知即□
4 □□□願成就文云生彼国者皆悉具足
5 三十二相是也如是初自無三惡趣願終至
6 得三法忍願一一誓願皆以成就第十八念
7 仏往生願豈孤以不成就乎然則念仏之人
8 皆以往生以何得知即念仏往生願成就文

28ウ2「就」下、『大經釈』「僉式信受敢莫孤疑」8字有り、宝本も同じ。

28ウ3「樂」下、『大經釈』「世」字有り、宝本も同じ。

28ウ4「就」下、『大經釈』「第一」2字有り、宝本も同じ。

28ウ5「願」上、龍本「無三惡趣」4字有り、宝本も同じ。

28ウ7「就」下、『大經記』「第二」2字有り、宝本も同じ。

28ウ8「即」下、龍本「不更惡趣」4字有り、宝本も同じ。

29オ1「極樂」、『大經釈』「彼国」に作り、宝本も同じ。

29オ2「是成」間、底本「即」字有り、宝本無し。今刪る。

29オ3「具」上、龍本「第二十一」4字有り、宝本も同じ。

29オ3「即」下、龍本「具三十二相」5字有り、宝本も同じ。

(29ウ)

1 云諸有衆生聞其名号信心歡喜乃至一念
2 至心廻向願生彼国即得往生住不退転是
3 也凡四十八願莊嚴淨土華池宝閣無非願
4 力何於其中独可疑惑念仏往生願乎加之
5 一一願終□云若不爾者不取正覺而阿弥
6 陀仏成仏已来於今十劫成仏之誓既以成
7 就当知一一願不可虚設故善導□□□□
8 □云彼仏今現在世成仏当知本誓重願不

1 虚衆生称念必得往生^{上已}□□□□□

2 □□問曰經云十念釈云十声念声之義

3 □□如何答曰念声是一何以得知觀經下

4 品下生云令声不絶具足十念称南無阿弥

5 陀仏称仏名故於念念中除八十億劫生死

6 之罪□□今依此文声即是念念則是声其意

7 明矣加之大集月藏經云大念見大仏小念

8 見小仏感師釈云大念者大声念仏小念者

(30オ)

29ウ4「惑」、宝本譌りて異字（从口从戈又从一）に作る。

29ウ5「終」下、『大経釈』「皆」字有り、宝本も同じ。

29ウ6「既」、『大経記』「果」に作り、宝本も同じ。

29ウ7「一願」問、底本「之」字有り、宝本無し。今刪る。

29ウ7「善導」、『大経釈』「上所引往生礼讃」7字に作り、宝本も同じ。

30オ1夾注「已上」下、『大経釈』「釈家得願旨須可仰信耳」10字有り、宝本も同じ。

30オ3「如」上、龍本「一異」2字有り、宝本も同じ。

30オ6「罪」下、『大経釈』夾注「已上」2字有り、宝本も同じ。

30オ7「明」、『大経釈』「曉」に作り、宝本も同じ。

[illegible]

(31才)

30ウ2「唱」下、龍本「訓」字有り、宝本も同じ。

30ウ6 「言」、『大經釈』「辞」に作り、宝本も同じ。

30ウ7「上」上、『大経釈』「所対」2字有り、宝本も同じ。

30ウ8 「惟多」、『大經釈』「非一旦如」4字に作り、宝本も同じ。

30ウ8「人天」、往本「天人」に作り、宝本も同じ。

31才3 「一一」下、『大經釈』「皆」字有り、宝本も同じ。

31才4「也」下、『大經釈』「方准」2字有り、宝本も同じ。

31才5 「乃」上、『大經釈』「中」字有り、宝本も同じ。

31才5「引」下、『大經釈』「解」字有り、宝本も同じ。

31才6「不相違」、『大經釈』「冥經旨」に作り、宝本も同じ。

31才6「但」下、『大經釈』「解此願」3字有り、宝本も同じ。

31才8「善導独総云念仏往生願」、宝本27字に作り、『大經釈』「者若不滿十即不得生善導之意総曰念仏往生願不限員数称念皆生」28字に作りて大同なり。但だ小異有りて、宝本「者」字無く、「曰」字を異字（禪主某亭之第三）に作るのみ。

(31ウ)

1 □□□□□□□□□□諸師別云十念往
2 生願者其意即不周也所以然者上捨一形
3 下捨一念之故也善導總言念仏往生願者
4 其意即□周也所以然者上取一形下取一
5 念之故也

三輩念仏往生之文

8 □□□□□□□□□□仏告阿難十方世界諸
7 天人民其有至心願生彼国凡有三輩其上輩

1 者捨家棄欲而作沙門発菩提心一向専念無
2 量寿仏修諸功德願生彼国此等衆生臨寿終
3 時無量寿仏与諸大衆現其人前即随彼仏往
4 生其国便於七宝華中自然化生住不退転智
5 慧勇猛神通自在是故阿難其有衆生欲於今
6 世見無量寿仏応発無上菩提之心修行功德
7 願生彼国

8 仏語阿難其中輩者十方世界諸天人民其有

(32オ)

31ウ2「周」、宝本譌りて異字（从冂从口）に作る。

31ウ4「即」下、『大経釈』「広」字有り、宝本も同じ。

31ウ7「仏」上、宝本9字有り。『決疑鈔』云く、「「仏告」等者若准餘篇応云「無量寿経下云」」と。宝本「無」字の上に2字（从言堇聲、从木安聲）有り、「下」字の下に1字（从冂弄聲）有り。龍本「ツ、シンテ無量寿経ノ下卷ヲ案スルニイハク」有り。

(32ウ)

1 至心願生彼国雖不能行作沙門大修功德当
2 免無上菩提之心一向專念無量寿仏多少修
3 善奉持齋戒起立塔像飯食沙門懸繪燃燈散
4 華燒香以此廻向願生彼国其人臨終無量寿
5 仏化現其身光明相好具如真仏与諸大衆現
6 其人前即随化仏往生其国住不退転功德智
7 慧次如上輩者也
8 仏告阿難其下輩者十方世界諸天人民其有

(33オ)

1 至心欲生彼国假使不能作諸功德当免無上
2 菩提之心一向專意乃至十念念無量寿仏願
3 生其国若聞深法歡喜信樂不生疑惑乃至一
4 念念於彼仏以至誠心願生其国此人臨終夢
5 見彼仏亦得往生功德智慧次如中輩者也
6 私問曰上輩文中念仏之外亦有捨家棄欲
7 等餘行中輩文中亦有起立塔像等餘行下
8 輩文中亦有菩提心等餘行何故唯云念仏

33オ3「其」、宝本異字（从彳皮聲）に作る。

33オ5、宝本誤りて1格低書す。今改む。

(33ウ)

1 往生乎答曰善導和尚觀念法門云又此經
2 下卷初云仏説一切衆生根性不同有上中
3 下隨其根性仏皆勸專念無量壽仏名其人
4 命欲終時仏与聖衆自来迎接尽得往生□□
5 依此積意三輩共云念仏往生也問曰此積
6 未遮前難何棄餘行唯云念仏乎答曰此有
7 三意一為廢諸行歸於念仏而説諸行也二
8 為助成念仏而説諸行三約念仏諸行二門

1 各為立三品而説諸行一為廢諸行歸於念
2 仏而説諸行者准云善導觀經疏中上來雖
3 説定散兩門之益望仏本願意在衆生一向
4 專称弥陀仏名之積意且解之者上輩之中
5 雖説菩提心等餘行望上本願意唯在衆生
6 專称弥陀^名而本願中更無餘行三輩共依
7 上本願故云一向專念無量壽仏也□一向
8 者□对二向三向等之言也例如彼五竺有
(34オ)

33ウ4「生」下、宝本夾注2字有り。龍本云く、「往生ヲエシム^上」と。宝本夾注是れなり。

33ウ8「行三」間、底本「也」字有り、宝本無し。今刪る。

34オ1「行一」間、底本「也」字有り、宝本無し。今刪る。

34オ6「名」、宝本異字（从人弗聲）に作る。

34オ7-同8「一向者」、宝本5字に作り、3字の上に1字（从口辛聲）有り、下に1字（从大一）有り。龍本云く、「一向トイフハソレ」と。

(34ウ)

1 三種寺一者一向大乘寺此寺之中無学小
2 乘二者一向小乘寺此寺之中無学大乘三
3 者大小兼行寺此寺之中大小兼学故云兼
4 行寺当知大小兩寺有一向言兼行之寺無
5 一向言今此經中一向亦然若念仏外亦加
6 餘行即非一向若准寺者可云兼行既云一
7 向不兼餘明矣既先雖說餘行後云一向專
8 念明知廢諸行唯用念仏故云一向若不^然

(35オ)

1 者一向之言最以叵消歟二為助成念仏說
2 此諸行者此亦有二意一以同類善根助成
3 念仏二以異類善根助成念仏初同類助成
4 者善導和尚觀經疏中拏五種助行助成念
5 仏一行是也具如上正雜二行之中說□□
6 □□□先就上輩而論正助者一向專念
7 無量寿仏者是正行也亦是所助也捨家棄
8 欲而作沙門發菩提心等者是助行也亦是

34ウ8「然」、『大經釈』「爾」に作り、宝本も同じ。

35オ5「説」下、往本「次異類助成者」6字有り、宝本も同じ。

(35ウ)

1 能助也謂往生之業念仏為本故為一向修
2 念仏捨家棄欲而作沙門又發菩提心等也
3 就中出家發心等者且指初出及以初發念
4 仏是□□長時不退之行寧容妨碍念仏也
5 中輩之中亦有起立塔像懸繒燃燈散華燒
6 香等諸行是則念仏助成也其旨見往生要
7 集謂助念方法中方處供具等是也下輩之
8 中亦有發心亦有念仏助正之義准前可知

1 三約念仏諸行各為立三品而說諸行者先
2 約念仏立三品者謂此三輩中通皆云一向
3 專念無量寿仏是則約念仏門立其三品也
4 故往生要集念仏証捫門云双卷經三輩之
5 業雖有淺深然通皆云一向專念無量寿仏
6 同感師之次約諸行門立三品者謂此三輩中通
7 皆有菩提心等諸行是則約諸行立其三品
8 也故往生要集諸行往生門云双卷經三輩

(36オ)

35ウ4「是」下、龍本「一期」2字有り、宝本も同じ。

36オ4「卷」、山版「觀」に作り、宝本も同じ。

36オ8「卷」、山版「觀」に作り、宝本も同じ。

(36ウ)

1 亦不出此^{上已}凡如此三義雖有不同共是所
2 以為一向念仏也初義即是為廢立而說謂
3 諸行為廢而說念仏為立而說次義即是為
4 助正而說謂為助念仏之正業而說諸行之
5 助業後義即是為傍正而說謂雖說念仏諸
6 行二門以念仏而為正以諸行而為傍故云
7 三輩通皆念仏也但此等三義殿最難知請
8 諸學者取捨在心今若依善導以初為正耳

1 問曰三輩之業皆云念仏其義可然但觀經
2 九品与寿經三輩本是開合異也若爾者何
3 寿經三輩之中皆云念仏至觀經九品上中
4 二品不說念仏至下品始說念仏也答曰此
5 有二義一如問端云双卷三輩觀經九品開
6 合異者以此応知九品之中皆可念念仏云
7 何得知三輩之中皆有念念仏九品之中盡無
8 念念仏乎故往生要集云問念仏之行於九品
(37才)

(37ウ)

1 中是何品撰答若如説行理当上上如是随
2 其勝劣応分九品然經所説九品行業是示
3 一端理実無量^{上已}故知念仏亦可通九品二
4 觀經之意初広説定散之行普逗衆機後廢
5 定散二善歸念仏一行所謂汝好持是語等
6 之文是也其義如下具述故知九品之行唯
7 在念仏矣

念仏利益之文

1 無量寿經下云仏語弥勒其有得聞彼仏名号
2 歡喜踊躍乃至一念当知此人為得大利^{則是}
3 具足無上功德
4 善導礼讃云其有得聞彼弥陀仏名号歡喜至
5 一念皆当得生彼
6 私問曰准上三輩文念仏之外挙菩提心等
7 功德何不歎彼等功德唯独讃念仏功德乎
8 答曰聖意難測定有深意且依善導一意而

(38才)

38才2「則是」、宝本互倒す。

(38ウ)

1 謂之者原夫仏意正直雖欲說唯念仏之行
2 隨機一往說菩提心等諸行分別三輩淺深
3 不同然今於諸行者既捨而不歎置而不可
4 論者也唯就念仏一行既選而讚歎思而容
5 分別者也若約念仏分別三輩此有二意一
6 隨觀念淺深而分別之二以念仏多少而分
7 別之淺深者如上所引若如說行理当上上
8 是也次多少者下輩文中既有十念乃至一

(39オ)

1 念数上中兩輩准此隨增觀念法門云日別
2 念仏一万遍亦須依時礼讃浄土莊嚴大須
3 精進或得三万六万十万者皆是上品上生
4 人当知三万已上是上品上生業三万已去
5 上品已下業既隨念数多少分別品位是明
6 矣今此言一念者是指上念仏願成就之中
7 所言一念与下輩之中所明一念也願成就
8 文中雖云一念未說功德大利又下輩文中

39オ4-同5「去上」間、底本「是」字有り、宝本無し。今刪る。

(39ウ)

1 雖云一念亦不說功德大利至此一念說為
2 大利歎為無上当知是指上一念也此大利
3 者是对小利之言也然則以菩提心等諸行
4 而為小利以乃至一念而為大利也又無上
5 功德者是对有上之言也以餘行而為有上
6 以念仏而為無上也既以一念為一無上当
7 以十念為十無上又以百念為百無上又以
8 千念為千無上如是展轉從少至多念仏恒

1 沙無上功德復応恒沙如是応知然者諸願
2 求往生之人何處無上大利念仏強修有上
3 小利餘行乎

末法万年後餘行悉滅特留念仏之文

5 無量寿經下卷云当来之世經道滅尽我以慈
6 悲哀愍特留此經止住百歲其有衆生值此經
7 者随意所願皆可度

8 私問曰經唯云特留此經止住百歲全不云

(40オ)

39ウ6-同7「当以」間、底本「知」字有り、宝本無し。今刪る。

40オ4「特」、宝本譌りて異字（从日寺聲）に作る。

(40ウ)

1 特留念仏止住百歲然今何云特留念仏哉
2 答曰此經所詮全在念仏其旨見前不能再
3 出善導懷感惠心等意亦復如是然則此經
4 止住者即念仏止住也所以然者此經雖有
5 菩提心之言未說菩提心之行相又雖有持
6 戒之言未說持戒之行相而說菩提心行相
7 者広在菩提心經等彼經先滅菩提心之行
8 何因修之又說持戒行相者広在大小戒律

1 彼戒律先滅持戒之行何因修之自餘諸行
2 准之応知故善導和尚往生礼讃釈此文云
3 万年三宝滅此經住百年爾時間一念皆當
4 得生彼又釈此文略有四意一者聖道浄土
5 二教住滅前後二者十方西方二教住滅前
6 後三者兜率西方二教住滅前後四者念仏
7 諸行二行住滅前後也一聖道浄土二教住
8 滅前後者謂聖道門諸經先滅故云經道滅

(41才)

(41ウ)

1 尽浄土門此經特留故云止住百歲也当知
2 聖道機縁淺薄浄土機縁深厚也二十方西
3 方二教住滅前後者謂十方浄土往生諸教
4 先滅故云經道滅尽西方浄土往生此經特
5 留故云止住百歲也当知十方浄土機縁淺
6 薄西方浄土機縁深厚也三兜率西方二教
7 住滅前後者謂上生心地等上生兜率諸教
8 先滅故云經道滅尽往生西方此經特留故

1 云止住百歲也当知兜率雖近縁淺極樂雖
2 遠縁深也四念仏諸行二行住滅前後者諸
3 行往生諸教先滅故云經道滅尽念仏往生
4 此經特留故云止住百歲也当知諸行往生
5 機縁最淺念仏往生機縁甚深也加之諸行
6 往生縁少念仏往生縁多又諸行往生近局
7 末法万年之時念仏往生遠霑法滅百歲之
8 代也問曰既云我以慈悲哀愍特留此經止

(42才)

(42ウ)

1 住百歲若爾者釈尊以慈悲而留經教何經
2 何教而不留也而何不留餘經唯留此經乎
3 答曰縱雖留何經別指一經者亦不避此難
4 但特留此經有其深意歟若依善導和尚意
5 者此經之中已說弥陀如来念仏往生本願
6 釈迦慈悲為留念仏殊留此經餘經之中未
7 說弥陀如来念仏往生本願故釈尊慈悲以
8 而不留之也凡四十八願皆雖本願殊以念

1 仏為往生規故善導釈云弘誓多門四十八
2 偏標念仏最為親人能念仏仏還念專心想
3 仏仏知人^{上已}故知四十八願之中既以念仏
4 往生之願而為本願中之王也是以釈迦慈
5 悲特以此經止住百歲也例如彼觀無量壽
6 經中不付属定散之行唯孤付属念仏之行
7 是即順彼仏願之故付属念仏一行也問曰
8 百歲之間可留念仏其理可然此念仏行唯

(43才)

(43ウ)

1 為被彼時機將為通於正像末之機也答曰
2 広可通於正像末法拏後勸今其義応知

3 弥陀光明不照餘行者唯攝取念仏行者之

4 文

5 觀無量寿經云無量寿仏有八万四千相一一
6 相各有八万四千随形好一一好復有八万四
7 千光明一一光明遍照十方世界念仏衆生撰
8 取不捨同經疏云從無量寿仏下至攝取不捨

1 已来正明觀身別相光益有縁即有其五一明
2 相多少二明好多少三明光多少四明光照遠
3 近五明光所及処偏蒙撰益問曰備修衆行但
4 能廻向皆得往生何以仏光普照唯撰念仏者
5 有何意也答曰此有三義一明親縁衆生起行
6 口常称仏仏即聞之身常礼敬仏仏即見之心
7 常念仏仏即知之衆生憶念仏者仏亦憶念衆
8 生彼此三業不相捨離故名親縁也二明近縁

(44オ)

43ウ1「末之」間、底本「法」字有り、宝本無し。今刪る。

43ウ8「捨同」間、底本改行有り、宝本無し。今刪る。

(44ウ)

1 衆生願見仏即応念現在目前故名近縁也
2 三明増上縁衆生称念即除多劫罪命欲終時
3 仏与聖衆自来迎接諸邪業繫無能碍者故名
4 増上縁也自餘衆行雖名是善若比念仏者全
5 非比較也是故諸經中处处広讃念仏功能如
6 無量寿經四十八願中唯明專念弥陀名号得
7 生又如弥陀經中一日七日專念弥陀名号得
8 生又十方恒沙諸仏証誠不虛也又此經定散

1 文中唯標專念名号得生此例非一也広顯念
2 仏三昧竟

3 觀念法門云又如前身相等光一一遍照十方
4 世界但有專念阿弥陀仏衆生彼仏心光常照
5 是人撰護不捨總不論照撰餘雜業行者

6 私問曰仏光明唯照念仏者不照餘行者有
7 何意乎答曰解有二義一者親縁等三義如
8 文二者本願義謂餘行非本願故不照撰之

(45才)

(45ウ)

1 念仏是本願故照撰之故善導和尚六時礼
2 讃云弥陀身色如金山相好光明照十方唯
3 有念仏蒙光接当知本願最為強^{上已}又所引
4 文中言自餘衆善雖名是善若比念仏者全
5 非比较也者意云是約淨土門諸行而所比
6 論也念仏是既二百一十億中所選取妙行
7 也諸行是既二百一十億中所選捨麁行也
8 故云全非比较也念^レ仏是本願行諸行是非

1 本願故云全非比较也

(46オ)

45ウ8「也念」間、底本「又」字有り、宝本無し。今刪る。

付記 本稿は、科学研究費助成事業（基盤研究C、課題番号「22K00114」）による研究成果の一部である。